

第1期三田市人権のまちづくり推進委員会副委員長への聞き取り（概要）

開催日時：平成25年4月5日（火）10：00～11：00
開催場所：神戸学院大学

（土屋委員長）三田市人権のまちづくり推進委員会第4期の諮問が第1期C分科会のテーマ（点検・評価のあり方）を引き継いでいる。第1期の答申を検討していくに当たり、第1期の提言内容及びその時の作業を振り返り、委員の間で共有して、進めていきたいと考えている。第1期では、水谷先生はどのように進めて、どんなことを取り残したとお考えか？

（水谷元副委員長）行政で取り組み出していたPDCAサイクルによる評価を使おうとしたが、改善のための評価であるはずが、値踏みのための評価になってしまいがちなこと、次に、これと深く関わるとは、実際以上によく見せようとしたり悪いところを隠してしまったりして、いつわりやごまかしを横行させてしまう。人権施策の評価でもそういうごまかしを起こすと、本当の人権のまちづくりからは遠ざかり、逆のものになりかねない。そこを一番危惧して進め、制度設計を完成できなかったが、腐心したところだ。

評価は本来改善するためのものであり、改善することに意味がある。一步前進がある。以前に比べてどれだけ進歩したかということが本当の人権の前進・達成につながるのではないかと考えていた。

そういう観点から評価についての勉強会をしながらこの分科会をやっていき提言もまとめた。ただ、新しいシステムを構築していくまでのアイデアは無かったので、既存のシステムを回していく上で、値踏みやレッテル貼りにならないように、理念の啓発・普及と評価シートのちょっとした改善などに取り組んだ。理念は共有されたと思っているが、そのための制度設計まではできなかった。

（土屋委員長）第1期提言書に書かれている「励ます評価、改善のための評価」ということは、我々が一年目でまさに議論してきたことだ。

ただ、人権施策に関しては、2002年に同和対策事業特別措置法が期限切れになり、三田市も含めて、今まで予算化されていた人権関連事業の維持に関してはかなり厳しい目が注がれている。その中で評価システムを作ることは両刃の剣になりかねず、人権施策の実施を励ますつもりで作った評価システムが、施策を切り捨てる道具として使われてしまうかもしれない。この点に関してはどのように意識されていたか？

（水谷元副委員長）評価をすることに関して、誰も悪くしようと思っしてしているわけではないが、手っ取り早くしようと思うと数値化を求めてしまう。でも人権とか人というものは長期的に見る

必要がある。それと、社会教育などを行っている団体に対する励みとして、よく活動を行っているところへは表彰をするという方法をとるのもよい。指弾だけしていくと萎縮して、長所も潰していってしまうこともある。できるだけ褒めながら伸ばしていくことで、人権のまちづくりができていけばと思って提言をまとめた。

それと、もう一つは、評価のために市長直属の機関などの特権的な機関を設けてしまうと、権力が集中して良くないことになる。どれだけ市民参加ができるかということ、当事者の参加も含めて、市民参加が人権を保障する上で必要だ。第三者に客観的な評価を求めると値踏みになる。当事者がやると、手前味噌にならないように自己規制しながらお互いに切磋琢磨する必要はあるが、改善点は見えてくる。改善のための評価であるということを知っていれば、改善するアイデアも出るのではないか。そういうアイデアを拾い、褒めながら改善していくことで、三田が理想のまちに近づいていってくれればと思った。

(土屋委員長) 提言書に添付された評価シート(第1期提言書 p.75~76)は、第1期C分科会で作ったのか?

(水谷元副委員長) この評価シート(第1期提言書 p.75~76)は、当時三田市で使用していたものをちょっと改良しただけ。分科会では市民との協働を特にクローズアップしていたので、そこは必ず入れて欲しいということで入れたのと、当時(今もだが)、評価を値踏みを使って無駄を省く行革に利用することが多かったが、行政の本来の使命を果たすことが一番大事で、それ抜きの行政改革はあり得ない。そうでないと行革に名を借りた行政破壊になりかねない。そこで、経済効率ではなく、行政本来の使命からみた必要性や有効性を問うことにして、市が行っていた評価を活用しながら、読み直しや付け足しをして、試行を実施したが、C分科会に来ていた行政メンバーはともかく、どれだけ回答者にそうした趣旨が徹底されて行えたかは疑問だ。

この評価シートを用いた試行のあと自分は米国に留学したので、9月以降の分科会の座長は委員長に兼ねていただいた。

(土屋委員長) 試行したあと、第16回分科会の議事録に「記載例は作ったが、記入上の注意書きも作ればよかった」というコーディネーターの発言や、「質問項目ごとに解説をしなければならぬ」という委員の発言がある。実際、自己評価を含めて、評価を書いていただく際にこのところが一番難しいわけで、いくら依頼する側で励ますための評価だと言っても、書く側としては何を書けばいいのかが分かりにくい。

(水谷元副委員長) C分科会の委員は改善のために励ます評価ということをよくわかっていたが、C分科

会以外の方々、世間で言う評価、つまり評価というものは客観的でレッテルを貼り付けるような評価だと思うだろう。結局、良い意味でも悪い意味でもごまかしてしまうところが起りかねないのかなと思う。こういうところを対応するともっと良くなるよというところがあってもまた予算を削られてしまうといけないので、結局そこで目をつむってしまう。また、誇大表記などのごまかしが横行して、実態や市民の求めるものがかえって見にくくなってしまふ。

(土屋委員長) あと、第9回分科会の議事録にルーブリック(評価指標)とマトリックス(行列表)の話が出てくる。このマトリックス(行列表)は1年目の報告書に資料として再録されているが、横に人権施策方針の柱が並び、縦に人権施策の分野が並んでいる。だが、ルーブリックは、評価対象の項目ごとに、具体的にどういうことを行えばどういう評価になるかという指標なので、このマトリックスはルーブリックではないように思うが？

(水谷元副委員長) ルーブリックではない。ルーブリックは良くできたとかできなかったという項目を、文章で書いていくものだ。このマトリックスの下で、実践しつつ、ルーブリックを作っていくということで例を示して、各担当者が相互に見せ合って切磋琢磨しつつ作るべしとはいったが、そこまではいかず、例示も教育実践用のものだったので、掲載していない。

(土屋委員長) すると、このマトリックスの中に実際の個別の事業を入れていき、その個別の事業に関してルーブリックを作っていくということだったのか？

(水谷元副委員長) まったく、そのとおり。マトリックスは、評価のツールというよりは漏れている人権施策が無いかをチェックするためのものだ。

(土屋委員長) そこは少し誤解していた。そうすると、ルーブリックの評価対象項目は、一つ一つの事務事業か、施策の全体か、事業を一部束ねた施策になるのかもしれないが、結局第1期のC分科会ではルーブリック作りまでは進んでいないということか？

(水谷元副委員長) そのとおり、進んでいない。評価シートを使った試行の中からルーブリックができればと考えていた。ルーブリックは、元々教師の世界でも、教師同士が互いに「私はAをつける」「私はBをつける」「どこが良くてAをつけた」「なんでBをつけた」といった意見を出し合いながら作っていく評価法。そこで人権施策の評価でも、実際に担当している職員などがお互い意見を出し合いながら作っていくことを考えていた。担当者同士、どういう項目が大事なのか、どこに目をつけるか(「客がたくさん来た」とか「短期間の間に来た」とかなど)によって、評価も変わってくる。だから、ルーブリックを作っていく過程自身に意味がある。評価シートによる評価を試行して、次に本格実施して、結果的にルーブリックができ

ると想定した。担当者が、評価しあいながらループリック作りをしていく。誰かが外から、例えば理想的な評価システムを作り上げて「これで評価しなさい」というのではなくて、人権施策を実施している方々が自分たちであれこれ話し合い試行錯誤しながらやってきたら、結果的にシステムができてくる、ということを念頭に置いていた。

(土屋委員長) 評価シートで試行してフィードバックをしたということは、みんなで参加するループリック作りに向けての一つの出発点という位置づけだったのですね。ただ、そうすると、ループリック作りの中に、費用対効果に馴染まないところとか、文章で表したことが良いところとか、数値で表せないところが、いずれはループリックの中に表れてくるだろうということか？

(水谷元副委員長) だから、数値も「80%」とか「何人以上来た」とかよりは「短期間に来た」とかまさに文章にしながらかやっていくべき。数値だけにするとおかしなことになっていくと思う。

(土屋委員長) 「アウトプットではなく、アウトカムだ」という、その「アウトカム」がまさに文章化されたかたちでのループリックに表れてくるはずだということですね？

(水谷元副委員長) むしろ担当者側ならではの思いなどが見えるから、担当者の声を吸い上げる形でループリックを作り上げていくべきものではないか。

(土屋委員長) 施策側と担当者・市民も全部加わった形でのループリック作りのようなものそのものということですね。

アundas☆フリットへのフィールドワークの内容は議事録に残っていないが？

(水谷元副委員長) 5人の委員で現場に行ってみてあれこれざっくばらんに意見交換したので、議事録に残せるようなものではなかったと思う。だけど、いいことをやっていたので、これを何らかの形で活用できればとは思っていたが、自分は海外研修に出ってしまったので、そのまま(見ただけ)になってしまった。